

管理栄養学科 授業科目の履修について

1. 総 説

- (1) 授業科目は、共通科目群、専門科目群、演習群に区分されている。
- (2) 本学を卒業するためには、次の履修区分にしたがって124単位を修得しなければならない。

- ① 共通科目群 16単位以上
- ② 専門科目群 98単位以上
- ③ 演習群 10単位

上記の条件を満たすことで、卒業時に学士（管理栄養）の学位が与えられ、栄養士免許申請資格を取得すると同時に管理栄養士国家試験受験資格を得ることができる。

(7. 栄養士免許取得条件および管理栄養士国家試験受験資格取得条件の項目参照)。

管理栄養士として幅広い教養と広範な専門知識を習得するために、これらの単位数を上回るように科目の履修をすることが望ましい。

- (3) 単位は、授業形態によって、次の通り定められている。

- ① すべての講義科目、共通科目群における演習科目および応用栄養学演習、栄養教育論演習、臨床栄養学演習、運動指導実習（演）については、毎週1時間15週の授業をもって1単位とする。
- ② ①に挙げた科目以外の演習科目および共通科目における実技科目については、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。

ここに含まれる科目は、以下の12科目である。

管理栄養学科専門科目

総合演習、基礎演習ⅠA、基礎演習ⅠB、基礎演習ⅡA、基礎演習ⅡB、専門演習ⅠA、専門演習ⅠB、専門演習ⅡA、専門演習ⅡB、卒業研究

共通科目

生涯スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ

- ③ 専門科目群の専門基幹科目、専門展開科目および教職科目における実験・実習科目については、毎週3時間15週をもって1単位とする。ここに含まれる科目は、以下の22科目である。

調理学実習、調理科学実験、公衆衛生学実習、生化学実験Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学実習、食品衛生学実習Ⅰ、食品学実験Ⅰ・Ⅱ、栄養調理学実習、基礎栄養学実習、応用栄養学実習、栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ、公衆栄養学実習、給食経営管理論実習、臨地実習Ⅰ・Ⅱ、栄養教諭実習Ⅰ・Ⅱ

- (4) 授業科目は、在学中に変更になる場合がある。この場合、年度始めのオリエンテーション等で説明があるので、必ず出席して、学生生活ハンドブックに記入しなければならない。

2. 履修の手続

- (1) 学生は本学の授業科目のうち、いずれの科目を履修するかは自分で決定しなければならない。その場合次のことを考慮すること。
- ① 履修できる科目は、人間生活科学部・管理栄養学科の授業科目表、授業時間割、シラバス（講義要項）に基づくものとする。
 - ② 学習効果を高めるため、学科目の履修は原則として、開講年次、開講学期順に従って履修しなければならない。
- (2) 学生は授業科目を受講する場合は所定の期間内に学内ネットワーク（総合情報システム；MELOS, 以下 MELOS と表記）に接続し、履修登録すること。履修登録しない授業科目については受講することが出来ない。
- (3) 履修できる単位数は、半期で 26 単位以内、年間 50 単位以内とする。
再履修する者には、新規履修を含め、半期で 32 単位以内、2・3・4 年次は 62 単位以内の履修を認める。
なお、半期の履修単位を計算するとき、通年 2 単位の科目は半期 1 単位として計算する。
ただし、教職に関する専門科目及び栄養に係る教育に関する科目は、履修単位数 50 単位の別枠とする。
履修制限科目には、予備登録科目と大人数履修制限科目がある。いずれの方法で登録するのかは、配布される「履修の手引き」で確認すること。なお、一旦予備登録し、履修登録した科目を取り消すには、所定の期間内に科目担当者に申し出て履修削除をしなければならない。
- (4) 3 年次に進級できない場合にあっても「専門演習Ⅰ A・Ⅰ B」「専門演習Ⅱ A・専門演習Ⅱ B」「卒業研究」を除いて 3・4 年次の開講科目を履修できる。
- (5) 履修登録後の履修科目の変更、追加および取り消しは、所定の期間内に MELOS に接続された情報端末を用いて履修変更した場合に限って認められる。

3. 履修の方法

(1) 共通科目群の履修について

- ① 共通科目群の科目は、幅広く深い教養、総合的判断力および豊かな人間性の育成を目指すという主旨に基づいて設けられている。
- ② 共通科目群の科目は、「情報」、「語学」、「健康とスポーツ」、「文化と社会」、「社会と歴史」、「科学と自然」、「文理ハイブリッド」、「共生の探究」、「全学ゼミナール」、「体験型探究」、「キャリア」、「留学認定科目」、及び「高大連携科目」に区分されている。
- ③ 本学を卒業するためには、共通科目群から、合計16単位以上を修得しなければならない。ただし、この16単位には、必修科目（情報入門・情報基礎Ⅰ・英語コミュニケーション・英語リーディング）8単位を必ず含めなければならない。

イ. 情報科目には、情報化に対応するための科目として「情報入門」「情報基礎Ⅰ」を設け、基本的なコンピュータ操作の習得から、より高度な操作の習得および情報リテラシーの習得を目標としている。特に管理栄養学科の専門科目を学ぶにあたり必要となる「情報入門」と「情報基礎Ⅰ」は1年次に履修する。

ロ. 語学科目については、「英語コミュニケーション」「英語リーディング」を含む4単位以上を履修しなければならない。「英語コミュニケーション」「英語リーディング」は1年次に履修し、あとは1～4年次の間に各自が選択し、履修する。

ハ. 健康とスポーツ科目については、特に栄養士・管理栄養士の業務としての栄養指導、運動指導、休養指導やスポーツ栄養を学ぶにあたり必要となる「生涯スポーツ実習Ⅰ」の履修を勧める。

ニ. 体育実技の科目は、選択種目によってクラスを編成して実施する。

ホ. 体育実技の科目を疾病などによって一時的に見学せざるをえない場合には、担当教員に申し出て、指示を受けなければならない。

ヘ. 身体的な問題や医師の診断等によって、長期にわたって体育実技の科目を受講できない場合は、予め担当教員に申し出て、指示を受けなければならない。

ト. 共通科目群「キャリア」の区分に1年生を対象にした「基礎力養成Ⅰ・Ⅱ」の2科目がある。この科目は、企業の採用試験や公務員試験において必要となる基礎学力を修得することを目的としている。この科目での学びを公務員試験受験までつなげるために、2年生で「公務員基礎力養成Ⅰ～Ⅳ」の4科目を開講する。これら科目は、公務員試験に必要な基礎的知識の獲得と学習方法を修得することを目的にしている。さらに、3年生では「公務員試験対策Ⅰ・Ⅱ」の2科目を開講する。この科目では、公務員試験に特有の試験科目などへの対応を目的としている。このように主に公務員試験受験を目指す学生のために1年生から3年生まで継続的に科目を設けるプログラムになっている。公務員試験の受験を希望する学生は、積極的に受講すること。また、公務員対策プログラムでの学びは、企業の採用試験にも共通する内容が含まれるため公務員志望以外の学生にとっても有益な科目である。

- ④ 共通科目群の科目は、1年次から4年次にかけて開講されているので、各自の問題意識と関心に基づいて適宜選択する。

(2) 専門科目群の科目履修について

- ① 専門科目群の科目は、Ⅰ. 専門基礎科目、Ⅱ. 専門基幹科目、Ⅲ. 専門展開科目、Ⅳ. 専門関連科目、および栄養教諭一種免許に関わる科目（教職に関する科目と栄養に係る教育に関する科目）に区分されている。
- ② 本学を卒業するためには、専門基礎科目から8単位、専門基幹科目から38単位、専門展開科目から46単位、専門関連科目から6単位以上、合計98単位以上を修得しなければならない。
- ③ Ⅰ. 専門基礎科目、Ⅱ. 専門基幹科目、Ⅲ. 専門展開科目、Ⅳ. 専門関連科目の概要は、次の通りである。
- イ. 専門基礎科目は、教養的な教育と専門的な教育をつなぐ性格を持つ科目であり、すべて必修となっている。
- ロ. 専門基幹科目は、広く栄養科学の基本的体系を学ぶとともに、栄養士・管理栄養士として求められる基本的な知識、技能、態度を身につけることを目的として設定されている。このため、管理栄養士養成施設におけるカリキュラムに基づいた「社会環境と健康」「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」「食べ物と健康」の3分野それぞれにおける教育目標が達成できるよう配置されており、すべて必修となっている。
- ハ. 専門展開科目は、栄養士・管理栄養士としての専門性を高め、栄養評価、判定に基づいた計画、実施、再評価の総合的なマネジメントをおこなう能力を養うことを目的として設定されている。「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」「総合演習」「臨地実習」分野に分けられ、それぞれの分野における教育目標が達成できるよう配置されており、すべて必修となっている。
- ニ. 専門関連科目は、医療、福祉系管理栄養士とフードマネジメント系管理栄養士の2つのモデルを想定して設定されており、本学を卒業するためには6単位以上を修得しなければならない。すべて選択となっており、各自の問題意識や関心、将来の進路希望に応じて適当な科目を選択し、体系的に理解するように努める必要がある。フードスペシャリスト受験資格のための科目も多く設定されている。(9. フードスペシャリストの項目参照)
- ④ 総合演習では、臨地実習ⅠおよびⅡにおける事前事後指導を含め、これまでに修得してきた専門科目の知識を基礎から応用へと関連付け、横断的に理解することを目的としている。
- ⑤ 臨地実習は、管理栄養士ならびに栄養士免許取得に必要な学外での実習のことであり、学内で習得した知識や技術を実際の栄養管理の場で実践し、理論と実践を結びつけて理解できることを目的としている。

「臨地実習Ⅰ」

給食経営管理論および給食の運営、公衆栄養学の実際を学ぶため、保健所、学校、事業所、社会福祉施設等において計2週間2単位の実習をおこなう。なお、栄養士免許取得にかかる校外実習1単位（給食の運営）を含むものとする。

「臨地実習Ⅱ」

臨地栄養学に係る実際を学ぶため、病院において2週間2単位の实習をおこなう。

- イ. 臨地実習を受講するには、「栄養教育論実習Ⅰ、Ⅱ」、「臨床栄養学実習Ⅰ、Ⅱ」、「給食経営管理論実習」、「公衆栄養学実習」の単位を取得しているか、あるいは履修中であることが必要である。
- ロ. 実習時期は受け入れ施設の事情により、授業期間中や夏・春期休業などの長期休暇中に実施される場合がある。
- ハ. 実習先の決定は本人の希望を尊重しつつ実習担当者が決定する。学生各自が実習施設の内諾を得なければならない場合もある。
- ニ. 臨地実習は実習施設の協力を得て行われるものであり、実習生は実習施設に迷惑をかけることがないように、しっかりとした決意と十分な配慮を持って取り組むこと。
- ホ. 「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」については、その履修条件を別に定める。

(3) 演習群の履修について

- ① 演習群の科目は、自ら考え、判断し、意見を発表する能力を身につけるとともに、少人数で行われる演習を通じて教員と学生や学生相互の適切な人間関係を培い形成していくことを主旨として設定された科目である。これらの演習を通じて栄養士・管理栄養士として必要とされる総合的能力を養成することが望まれる。
- ② 演習群の科目は「基礎演習ⅠA」および「基礎演習ⅠB」、「基礎演習ⅡA」および「基礎演習ⅡB」、「専門演習ⅠA」および「専門演習ⅠB」、「専門演習ⅡA」および「専門演習ⅡB」、「卒業研究」から構成され、すべて必修である。特に「基礎演習ⅠB」では、履修中の科目および既履修科目で修得した知識の定着を図るために継続して学修を行い、試験に合格することによって単位認定が行われる。
- ③ 「基礎演習ⅠA」および「基礎演習ⅠB」は、学問の基礎を修得するとともに自分の将来の方向性を選択することを目的とした科目で、1年次に履修する。
- ④ 「基礎演習ⅡA」および「基礎演習ⅡB」は、大学で学習する上で必要となる基礎的なスキルの修得を図るとともに学問に対する興味と学習意欲を高めることを目的とした科目で、2年次に履修する。特に「基礎演習ⅡB」においては、既履修科目で修得した知識の定着を図るために継続して学習を行い、試験に合格することによって単位認定が行われる。
- ⑤ 「専門演習ⅠA」および「専門演習ⅠB」は専門分野を横断して栄養評価や栄養管理が行える総合的能力を養うことを目的とした科目で、3年次に履修する。特に「専門演習ⅠB」においては、既履修科目で修得した知識の定着を図るために継続して学習

を行い、試験に合格することによって単位認定が行われる。

- ⑥ 「専門演習Ⅱ A」および「専門演習Ⅱ B」は、これまでの学修で修得した専門的知識を実践の場で創造的に展開できる能力を養うことを目的とした科目で、4年次に履修する。特に「専門演習Ⅱ B」においては、総合講義に出席し、試験に合格することにより単位認定が行われる。
- ⑦ 「卒業研究」では、「基礎演習Ⅱ A」「専門演習Ⅰ A」をさらに発展させて専門分野を横断した総合的能力を高め、実践的な演習を通じて実務能力を養うことや、これまでの学修成果を基に、テーマに応じた調査や実験を通じて研究し、まとめることにより課題設定能力、課題解決能力を発展させることを目標とする。「卒業研究」の単位認定は、指定された期限までに論文を提出したうえで1年間の学修成果を総合的に評価して行われる。

(4) 他学部・他学科の科目履修について

学生は、本学他学部・他学科に開設されている授業科目のうち、受講が認められる科目について、その授業科目を履修することができる。この場合においては、所定の手続きを経て許可を受けなければならない。

他学部で修得した単位は、共通科目群に限り卒業するために必要な単位数に算入することができる。

(5) 海外研修について

本学の実施する海外短期研修に参加した学生が、事前研修・海外派遣・帰国報告を全て行い、合格と認められた場合に共通科目の「海外研修」として認定する。

(6) 外国事情について

本学と外国の大学との学術交流協定に基づく交換留学および私費により個別に外国の大学に留学した場合、現地の大学で受講した授業内容を検討し、必要に応じてレポート等を提出する。その結果、合格と認められた場合に共通科目の「外国事情」として認定する。

4. 単位の修得区分

単位の修得については次の区分に従って履修しなければならない。

科 目 区 分		卒 業 に 必 要 な 最 低 単 位	
① 共 通 科 目 群	必 修	8 単 位	
	選 択	8 単 位 以 上	
② 専 門 科 目 群	基 礎 科 目 群	必 修	8 単 位
	基 幹 科 目 群	必 修	38 単 位
	展 開 科 目 群	必 修	46 単 位
	関 連 科 目 群	選 択	6 単 位 以 上
③ 演 習 群	必 修	10 単 位	
計		124 単 位	

他学部で修得した共通科目以外の単位、単位互換履修生として他大学で修得した単位、教職に関する専門科目群および栄養に係る教育に関する科目については、卒業に必要な単位として算入することはできない。

5. 進級制度について

人間生活科学部管理栄養学科では学習効果を高めるために、2年次から3年次へ進級するための要件を定めている。「基礎演習ⅠA」,「基礎演習ⅠB」,「基礎演習ⅡA」,「基礎演習ⅡB」の単位取得を含め、総単位56単位以上を取得すると進級が認められる。